

重要文化財門脇家住宅

一般公開・悠揚の間ミニコンサート



悠揚の間ミニコンサートで演奏する坂上さん

4月30日（月）から5月5日（土）までの6日間、門脇家住宅等保存協力会によって重要文化財門脇家住宅の一般公開が行われ、期間中に県内外から見学者約1,000人が所子を訪れました。

公開初日の午後4時30分からは、宅内の土間を利用して特別企画「悠揚の間ミニコンサート」が開催され、坂上和佳子さん（米子市）のクロマティックハーモニカの演奏が行われました。

曲目は日本の歌からクラシックまで幅広く、最後は11代当主の門脇卓爾さんと協力会の金田正毅さんが加わった「ふるさと」の演奏で閉じられました。クロマティックハーモニカの48音の音色は、古民家の静寂な趣とあいまって、幻想的な世界を醸し出していました。

むきばんだ史跡公園グランドオープン！

～第1期整備を終えて～

「むきばんだ史跡公園」として皆さんに利用されている妻木晩田遺跡が国史跡に指定されてから12年が経過。第一期整備の完了に伴い、今年の「むきばんだ新緑まつり」はグランドオープン記念として盛大に開催されました。

新緑まつりは、ゴールデンウィーク前半の4月29日（日）、快晴のもとで開催され、過去最高の2,400人の参加者で大盛り上がり。

開会セレモニーの後、ステージイベント、クイズラリー、古代体験などのほか、初公開の施設「発掘体験ひろば」での発掘体験、「弥生の森」散策ツアーなども催され、家族で楽しむ姿が多く見られました。

翌日には、吉野ヶ里遺跡（佐賀県）の第一人者、高島忠平氏による「吉野ヶ里と妻木晩田」と題しての記念講演があり、多くの聴講者が熱心に聞き入りました。

むきばんだ史跡公園では、今後も各種講座やイベントが予定されています。ぜひご参加ください。



発掘体験を楽しむ親子（発掘体験ひろば）

「大山のもひとり神事」

～鳥取県の無形民俗文化財に～

大山町大山の大神山神社奥宮で行われている「もひとり神事」が、2月24日付けで、鳥取県の無形民俗文化財として指定されました。

神仏習合当時の大山寺では、法華經を書写し納経するという仏教的な修行と山岳登拝及び霊水・薬草の採取という山岳信仰や修験的な修行の要素をもつ「弥山禪定」と呼ばれた行事が行われていました。明治になって神仏分離が行われた後に、「弥山禪定」の山岳信仰や修験的な修行要素の部分が、「もひとり神事（御神水取神事）」として大神山神社奥宮に引き継がれ、現在まで続いています。



指定書が渡されました（大神山神社奥宮）

今年も7月14日（土）午後7時から夕祭、翌日の午前1時30分から派遣祭が行われる予定です。派遣祭の後に真っ暗な中を懐中電灯などを頼りに頂上付近の石室に向けて登山します。頂上祭が執り行われた後、頂上の池から汲んだ御神水・薬草（ヨモギ類）を持ち帰って本祭で奉納。薬草などは本祭後に参拝者に配られます。

好天の場合には、米子平野周辺の夜景、早朝のご来光なども見ることもできます。一般の方も参加可能です。（※派遣祭まで奥宮の長廊でお休みできます。）

県指定文化財「大山のもひとり神事」への参加・見学を希望される方は、大神山神社奥宮（☎0859-52-2507）までお問い合わせください。